

1学期期末考査を『5日間』に延長します！どう取り組みますか？

<変更のきっかけ> 1学期中間考査最終日の試験が3科目→その後、関東大会出場壮行会→生徒総会→交通安全教室→13時過ぎに終了！→試験勉強で寝不足の生徒もいるなか、昼食をとらず13時すぎまで学校行事を行うことは生徒の健康に悪影響と判断！

<その他の理由> ①試験中でも、部活動の大会が試験期間直後にある場合には、放課後に昼食をとり活動を行い、終了時間が15時を過ぎる部活動がある。

②中間考査を『3科目×3日間』で行わなければならない学年がある。最終日を2科目にすれば、最後に学校行事を入れられるが、現状では無理。また、日々、部活動を行い、帰宅後に翌日の3科目の試験対策を行う必要もある。睡眠時間を削る生徒も予想され、生徒の健康に悪影響。

③試験中の午後に部活動を行うには、生徒の安全を守るために顧問の先生方の参加が必要。本来、試験の午後に、採点や成績処理を行うのだが、部活動をしているとその作業ができないため、勤務時間の延長や自宅での作業となってしまう、働き方改革に逆行し、先生方の健康に悪影響。

④期末考査も『3科目×4日間』で行わなければならない部活動がある！考査最終日に『表彰伝達式&全国総体壮行会など』を行う必要がある！→中間考査最終日と同じことを繰り返すことはできないと判断！



そこで、先生方と協議し、

期末考査を『5日間』に延長することで多くの問題点が解消できる！！！！

と判断しました！

<メリット>

①『12科目実施』の学年でも5日間で行うことで『3科目・3科目・2科目・2科目・2科目』となり、最終日を『2科目』とできるため『学校行事』を入れても通常の4限終了時刻の『12:45』前には終了できる！

②『2科目実施』の日が増えることで、部活動を実施しても早く帰宅できる。また翌日の試験対策も『2科目』であれば、対応がしやすくなる！

③先生方の採点業務などにあてる午後の時間が増える。また、試験期間が長くなることで採点にあてる日も増える！





* 2学期中間考査・2学期期末考査・学年末考査でも『1日延長』できるか確認中
 中です！試験後の『成績処理』の日程に余裕がない場合には、『延長』できませ
 せん！また、2月の学年末考査のすぐあとに『入学者選抜（高校入試）』があり、
 延長ができない可能性があるかと予想しています！また、お知らせします！

生徒のみなさんへお願い！！！！

以前より『**取り組みやすくなった！**』のなら、『**結果**』に現れるような努力を！

* 『セルフマネジメント能力』などの『**非認知能力**』も向上させていきましょう！！！！

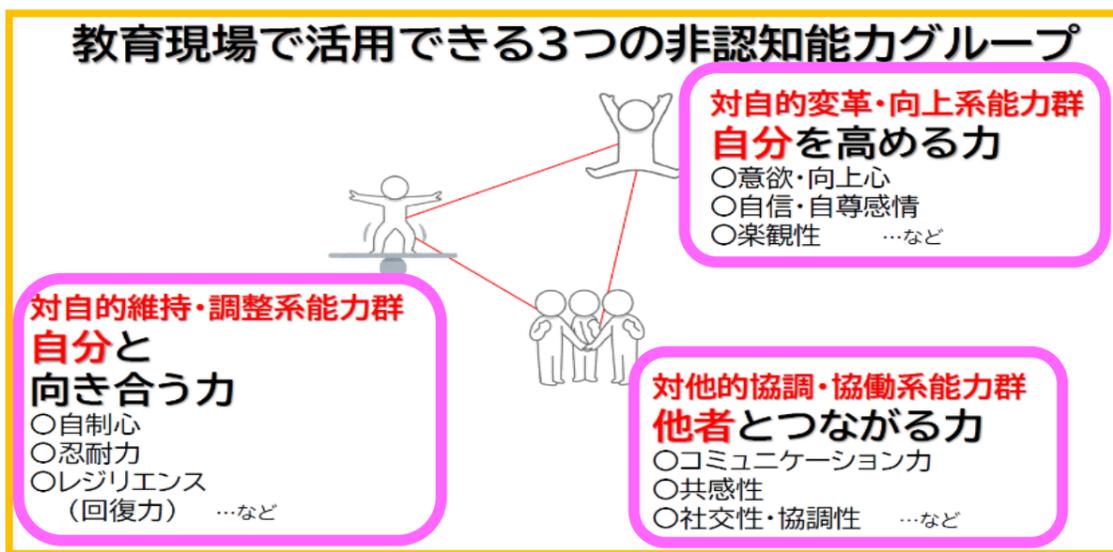
★**これからの時代は『認知能力』のみならず『非認知能力』が必要です！**★



『**認知能力**』とは『**偏差値やIQ**』で評価
 できる『**学力**』を指しています。それに対
 し、『**非認知能力**』とは、左の図のように
 『**認知能力に非ず（あらず）**』という解釈
 で『**認知能力以外のすべての能力**』を指し
 ています！よく『**勉強だけでいても社会で
 は通用しない！**』というコトバを耳にする
 と思いますが、これは言い換えれば『**非認**』

知能力を意識して伸ばさなくてはいけない！』という意味であると言っても過言ではありません！

9月に本校の講演会にいらっしゃる中山芳一先生は下の図のように『**①自分を高める力**』『**②自分と向き
 合う力**』『**③他者とつながる力**』を『**教育現場で活用できる3つの非認知能力グループ**』と定義していま
 す！まずはこの3つの能力を『**意識**』してみてはいかがでしょうか？（校長 星野 亨）



★**なぜ『非認知能力』の育成が
 必要なのでしょう？？？**★

急激な社会の変化・低迷する経済・急激な
 人口減少・多様な価値観・従来のビジネス
 モデルの変化・終身雇用制の崩壊・『AI』
 の台頭・答えのない多くの社会課題 …



『**答えのない問題**』に対応するには『**さまざまなチカラ（非認知能力）**』が必要です！

- ①課題発見力（問題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う力）
- ②計画立案力（問題解決のための効果的な計画を立てる力）
- ③実践力・実行力（計画に沿った実践・行動する力）
- ④親和力（円滑な人間関係を築く力）
- ⑤協働力（周囲の人たちと協力的に業務を進める力）
- ⑥統率力（目標に向かって組織を動かす力）
- ⑦感情制御力（自分の気持ちの揺れをコントロールする力）
- ⑧自信創出力（ポジティブな考え方やモチベーションを維持する力）
- ⑨行動持続力（よい行動を習慣化させる力）
- ⑩レジリエンス（失敗や困難から立ち直る力）
- ⑪創造力・想像力（あたらしいものを考えたり、作り出す力）
- ⑫柔軟性（変化に適応する力）
- ⑬交渉力（相手と話し合い、合意点を探る力）
- ⑭発信力・発表力（自分の意見や考えをわかりやすく発表する力）
- ⑮ストレスコントロール・楽観性・忍耐力・鈍感力（気に病まず、ものごとを進める力）
- ⑯自己肯定感（ありのままの自分を肯定する感覚）
- ⑰判断力（危機的状況や複数の選択肢が存在する状況で、効果的な意思決定を下す力）
- ⑱ユーモア力（言葉等によって、相手やその場を和ませたり、その場の空気を温かくする力）
- ⑳労力対効果・効率実践力（コスパ・タイパなどを含め、効率よくものごとを推し進める力）

＜一例＞

**どの『非認知能力』が
 あなたは自信がありますか？**